

「目標設定シート」×到達度テスト2回で正答率UP。 動画のレベルUPで得意を伸ばし、成功体験を醸成

苫小牧西高校（北海道・道立）

テーマ ▶ スタディサプリの戦略的活用

目的 ▶ 進学を目指す上位層から全体を引き上げる

スタディサプリ活用法

●戦略1

1年生と2年生でコース変更。
自信をつけさせ、課題をあぶり出す

1年生・ベーシックコース
生徒Aさん、4月到達度テスト正答率
英語72.0% 数学73.3% 国語86.0%
基礎力は身につけていると自信をつけた

2年生・スタンダードコース
生徒Aさん、4月到達度テスト正答率
英語52.8% 数学32.0% 国語73.9%
数学が課題だとはっきりした

●戦略2

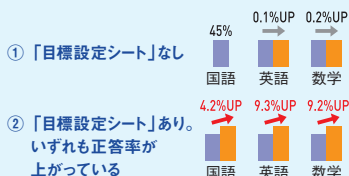
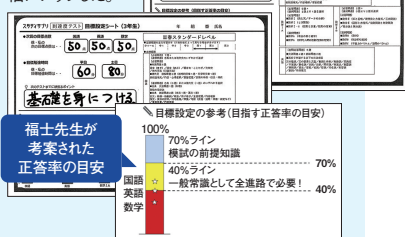
同範囲の「到達度テスト」を
2回実施することで成績UP



●戦略3

「目標設定シート」の活用で、
努力する習慣を養う

2回目の「到達度テスト」の前に、目標の点数と目標勉強時間を書いて提出することで、生徒たちのモチベーションが大幅にアップした。



課題

進学希望者の学力を伸ばす
ことで、学校全体の基礎
学力を底上げしたい

北海道内有数の工業地帯にある苫小牧西高校は、大学や専門学校進学だけでなく、就職者も一定数いる進路多様校。しかしここ数年は、国公立大学合格者が増えるなど、進学実績が伸びている。

「勉強しなくても就職できる」と思っている生徒がいると、学校全体の雰囲気がちやに流れていく。それを止めるには、上位層の学力を伸ばして全体を引き上げるしかない。そこで2022年に導入したのが「スタディサプリ」でした。ベーシック・スタンダード、ハイレベルなど、学力別の講義動画と学習の定着度を図る「到達度テスト」があつて、履修が必要な単元は『運動課題』として生徒に自動配信されるので学習習慣も身につく。導入初年度は様子見でしたが、翌年からはかなり戦略的に使いました。今、その成果が出ています」と進路指導部の福士直尚先生。

活用

1年生はベーシック、2年生はスタンダード。春秋の「到達度テスト」は同範囲を2回実施

「スタディサプリ導入の翌年、私は1年生の担任になりました。1年生で活用したのはベーシックコース。春の「到達度テスト」の結果を見ると、進学希望の上位層は皆高得点で自信をつけました。しかし、ここで満足していたのでは成長がない。進学組を伸ばすために、2年生から少し難しいスタンダードコースにしようと考えました。そのためには、目標をもって勉強することが必要です。そこで、リクルートの担当の方に相談して、『到達度テスト』の活用戦略を考えました」と福士先生。

その戦略とは、「到達度テスト」と運動課題の配信で終わるのではなく、もう一度同範囲の「到達度テスト」を行い、運動課題で勉強した成果を生徒に実感させ、成功体験を増やしていくことだ。

「この前とまったく同じ問題が出る」と伝えると、生徒はそれならできるかな

という気になるし、前回よりもがんばろう、今度は〇点を目指そう」と目標設定がしやすくなります。そう考えて作ったのが『目標設定シート』です。目標点数を自分で書くことがモチベーションの維持につながりますし、目標達成のための目標勉強時間を自分で書くことで、学習習慣も身につけられるようになっていきます」

実際、「目標設定シート」を書いてから受ける2回目の「到達度テスト」では、ほとんどの生徒の成績が上がり、自信につながっているという。

「そして、2年生からはスタンダードコースに変更。国語はそこそこ良かったけれど、英語と数学は惨敗です。しかし、生徒が自分の課題を実感できたので、変更して大正解。努力をすれば、希望校を目指して戦えます。就職組にも『社会に出るならこのくらいの学力は必要だよ』と伝え続けてきたことで、学校全体が勉強をしないといけないんだという雰囲気になつていきました」と福士先生。「スタディサプリ」で課題解決ができた好事例だ。



進路指導部
福士直尚先生（英語）

School Data

創立1919年 / 普通科（共学）
生徒数470人（男子173人、女子297人）進路状況（2025年3月実績）大学49人、短大0人、専門学校等63人、就職29人